

# 故郷の豊かな自然を次世代に ～ハマボウフウの保存、増殖活動 3年間の歩み～

- 1 自治体名 富山県
- 2 発表者名 丸山 旭 (MARUYAMA Asahi), 内藤 かなこ (NAITOU Kanako), 待寺 翼 (MACHIDERA Tsubasa), 竹多 摩耶 (TAKEDA Maya)  
(富山県立氷見高等学校)
- 3 活動名 故郷の豊かな自然を次世代に  
～ハマボウフウの保存、増殖活動 3年間の歩み～
- 4 活動期間 平成22年度～
- 5 活動場所 学校農場、氷見市の海岸
- 6 活動参加人数 60名
- 7 活動をはじめた経緯

私たちの学校がある富山県氷見市は能登半島の付け根に位置し、冬の味覚「氷見寒ブリ」の産地として全国的に有名です。また、白砂青松の氷見海岸は能登半島国定公園に属し、全国的に見ても豊かな海辺の自然が残る地域です。しかし、全国各地の砂浜海岸同様、護岸、堤防建設、内陸からの耕地や宅地の拡大、波による浸食等により、本来の自然海浜の姿が失われつつあります。中でも、かつて刺身のつまなどとして、民宿の食材として乱獲されたセリ科「ハマボウフウ」は絶滅の危機に瀕しています。

そこで、私たちは「ハマボウフウ」の短期増殖法について研究することにしました。この「ハマボウフウ」の短期増殖に成功すれば、海浜草本群落が復元できるのではないかと。さらに、「ハマボウフウ」の特産化を図ることによって地域農業活性化の活路を見出した、そんな思いからこの研究をスタートしました。

## 8 発表要旨

研究の目的を「ハマボウフウ」の有効活用を図ることとし、

- ① 「ハマボウフウ」の保護育成を通じて、氷見海岸の自然豊かな海辺環境を回復し、次世代につたえていく。
  - ② 高級食材として、また、感冒の薬用効果を持つ「ハマボウフウ」の栽培技術の研究を行い、その成果を近隣農家にも普及させて地域特産化を図る。
- の二つの視点で研究に取り組むことにしました。

### ◎活動内容

- |           |  |
|-----------|--|
| (1) 実態調査  | ① 自生地調査  |
| (2) 情報収集  | ① 氷見「ハマボウフウ」研究会活動<br>② 石川県の植物に詳しい方との交流   |
| (3) 実験・実習 | ① プランター栽培<br>② 胚培養 (MS培地、HA培地)<br>③ 胚培養における植物ホルモン剤の影響調査<br>④ Embryogenic Callus 誘導による「ハマボウフウ」苗の大量増殖<br>⑤ 胚培養苗と播種苗の生育調査 |
| (4) 普及活動  | ① ゆるキャラの制作<br>② 地元の保育園児と種まき  |

### 【ハマボウフウ】

学名: *Glehnia littoralis*

- ・被子植物のセリ科ハマボウフウ属の一種
  - ・海岸の砂地に自生する多年草
- 山菜として食用にするほか、漢方薬・民間療法薬として利用される。

